

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	作業療法評価学 I (前期)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	通年 前期火4	教室名	402号室
担当教員	本家 寛文	実務経験と その関連資格	作業療法士として身体障害者領域・精神障害領域・老年期障害領域で勤務し、作業療法評価・治療を経験してきた。			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>OTの評価とは何かを学ぶ。⇒OTは対象者の困っていることを解決するため、その内容を把握し問題となっていることの原因・要因を考えるとともに、利点を生かした解決のための有効な手段(仮説)を立案する。一般的にICFを利用して全体像を把握するが、ICF構成要素間の関係性を明確化し、適切に関係付けられた目標や目的、計画を熟慮することでその仮説を立てる。この根拠となる情報を得ることが評価である。問題解決の手段が効果的に実行され最大限の改善が図られるようマネジメントすることも重要なOTの役割であり、モニタリングのため指標となる情報を随時得ることも評価である。治療と評価は一体的なものである。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>前期15コマ分を、前期の期末試験(筆記)30%で評定する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>■教科書: 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 [第3版] (医学書院)、                  ■参考書: 作業療法学全書 第3巻 作業療法評価学 [改訂第3版] (協同医書出版社)</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>基本的に次の通り。                  事前学習(20分) 教科書を読んで内容を確認しておく。                  事後学習(40分) 資料整理と復習を行う。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習のために学習内容にざっと目を通しておくこと。</li> <li>・ 学習は予習よりも復習をしっかり行い、不明点がないようにしていくこと。</li> <li>・ 評価結果や目標、目的、計画などの関係性を熟慮する上で重要なのは、科学的解釈と論理的思考である。⇒磨いていきましょう!</li> </ul>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	①評価の意義と目的を説明できる。②評価項目について説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】シラバスを読んでおく。(20分)	
	講義形式	各コマにおける授業予定	オリエンテーション、OT評価 科目のオリエンテーション(教育目標の確認等)を行う。 OT評価の意義と目的、評価項目について学ぶ。		【事後学習】資料整理と復習を行う。(40分)	
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	③評価の流れの概要を説明できる。④評価結果の統合と解釈(対象者の全体像把握、問題点・利点の抽出と優先順位付け、予後予測)について説明できる。⑤ICFについて説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書を読んで内容を確認しておく。(20分)	
	講義形式	各コマにおける授業予定	OT評価の流れ、評価結果の統合と解釈、ICF OT評価の流れ、統合と解釈、ICFについて学ぶ。		【事後学習】資料整理と復習を行う。(40分)	
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	④評価結果の統合と解釈(対象者の全体像把握、問題点・利点の抽出と優先順位付け、予後予測)について説明できる。⑤ICFについて説明できる。	教科書 配布資料	【事前・事後学習】演習課題を進める。(60分)	
	演習形式	各コマにおける授業予定	ICFの使い方—演習(1) 自分のことをICFで整理してみよう。			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	④評価結果の統合と解釈(対象者の全体像把握、問題点・利点の抽出と優先順位付け、予後予測)について説明できる。⑤ICFについて説明できる。	教科書 配布資料	【事前・事後学習】演習課題を進める。(60分)	
	演習形式	各コマにおける授業予定	ICFの使い方—演習(2) 自分のことをICFで整理してみよう。			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	④⑤、⑥評価結果を統合し解釈するために、必要な知識・技術を説明できる。	教科書 配布資料	【事前・事後学習】演習課題を進める。(60分)	
	演習形式	各コマにおける授業予定	統合と解釈—演習(1) 他者の全体像を把握して文書化してみよう。			

授業の方法		内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標 ④⑤、⑥評価結果を統合し解釈するために、必要な知識・技術を説明できる。	教科書 配布資料	【事前・事後学習】演習課題を進める。(60分)
	各コマにおける授業予定	統合と解釈—演習(2) 他者の全体像を把握して文書化してみよう。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標 ④⑤、⑥評価結果を統合し解釈するために、必要な知識・技術を説明できる。⑦記録と報告の意義、情報の活用と管理について作業療法士の責任を説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書を読んで内容を確認しておく。(20分) 【事後学習】資料整理と復習を行う。(40分)
	各コマにおける授業予定	統合と解釈に必要な知識・技術、記録と報告、情報の活用と管理 統合と解釈に必要な知識・技術について考える。 記録と報告、情報の活用と管理について学ぶ。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標 ②、⑧面接の目的と種類を説明できる。⑨面接のために必要な基礎知識を説明できる。⑩観察の種類を説明できる。⑪観察のために必要な基礎知識を説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書を読んで内容を確認しておく。(20分) 【事後学習】資料整理と復習を行う。(40分)
	各コマにおける授業予定	情報収集、面接、観察 情報収集、面接、観察について学ぶ。		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 ⑫QOLの概念を説明できる。⑬興味・関心や役割と作業療法の関係性を説明できる。⑭QOL尺度、興味・関心の評価法、役割の評価法を列挙できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書を読んで内容を確認しておく。(20分) 【事後学習】資料整理と復習を行う。(40分)
	各コマにおける授業予定	QOL、興味・関心、役割 QOL、興味・関心、役割について演習を交えて学ぶ。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 ⑫QOLの概念を説明できる。⑬興味・関心や役割と作業療法の関係性を説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書を読んで内容を確認しておく。(20分) 【事後学習】資料整理と復習を行う。(40分)
	各コマにおける授業予定	対象者の主体性・意志・動機 OTで重視する事項(対象者の主体性・意志・動機)について考える。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 ⑮意識障害の評価法を説明できる。⑯バイタルサインの測定方法を説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書を読んで内容を確認しておく。(20分) 【事後学習】資料整理と復習を行う。(40分)
	各コマにおける授業予定	意識、バイタルサイン 意識、バイタルサインについて学ぶ。		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標 ⑯バイタルサインの測定方法を説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書を読んで内容を確認しておく。(20分) 【事後学習】資料整理と復習を行う。(40分)
	各コマにおける授業予定	血圧測定—実習 血圧測定の実技練習を行う。		
第13回	講義実習形式	授業を通じての到達目標 ⑰形態計測の種類を列挙できる。⑱四肢長、幅径・深径、BMIと標準体重について説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書を読んで内容を確認しておく。(20分) 【事後学習】資料整理と復習を行う。(40分)
	各コマにおける授業予定	形態計測—実習(1) 形態計測について学び、実技練習を行う。		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標 ⑰形態計測の種類を列挙できる。⑱四肢長、幅径・深径、BMIと標準体重について説明できる。	教科書 配布資料	【事前学習】教科書を読んで内容を確認しておく。(20分) 【事後学習】資料整理と復習を行う。(40分)
	各コマにおける授業予定	形態計測—実習(2) 形態計測の実技練習を行う。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 ⑲ROMの測定方法、注意事項、付随して評価すべき事項を説明できる。 ⑳MMTの測定方法、注意事項、予備的検査を説明できる。	教科書 配布資料	【事後学習】後期の16-30コマ分の課題学習に向けた予習を進める。(60分) 後期分のシラバス内容を確認しておく。
	各コマにおける授業予定	到達度評価、課題振り分け、ROMとMMTの基礎と考え方 ROMとは？MMTとは？—この科目で学習するROMとMMTの到達度評価について確認する。課題振り分けを行い、各グループで課題の自主学習を行う。		

2022 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	作業療法評価学Ⅰ(後期)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (3) 時間(単位)
対象学年	1年		学期及び曜時限	通年 後期	教室名	機能訓練・治療室
担当教員	本家 寛文	実務経験とその関連資格	作業療法士として身体障害者領域・精神障害領域・老年期障害領域で勤務し、作業療法評価・治療を経験してきた。			
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>作業療法において、対象者の作業・課題遂行上の問題を明確化・解釈して原因を推察していく一連の臨床思考過程には、ヒトの身体・運動機能の理解、運動・動作の分析的視点、異常運動を見極める観察眼やその原因を分析する思考力が必要であり、人体の形態・構造・機能に関する運動学的知識が必須となる。この科目では運動学の基礎となる解剖学的理解を深めつつ、具体的に、臨床で得られる情報をできるだけ正確にするための関節可動域測定法(ROM-T; range of motion test)と徒手筋力検査法(MMT; manual muscle test)について学ぶ。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <p>後期15コマ分を、後期にROM期末試験20%(筆記試験10%、実技試験10%)とMMT 期末試験50%(筆記試験34%、実技試験16%)で評定する。</p>						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>■教科書: 実践リハ評価マニュアルシリーズ 臨床ROM測定からエクササイズまで(ヒューマンプレス)、 新・徒手筋力検査法 [原著第10版] (協同医書出版社)、 標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 [第3版] (医学書院)</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>基本的に次の通り。 事前学習(20分) 教科書を読んで内容を確認しておく。 事後学習(40分) 資料整理と復習を行う。</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習のために学習内容にざっと目を通しておくこと。</li> <li>・ 学習は予習よりも復習をしっかり行い、不明点がないようにしていくこと。</li> <li>・ 評価結果や目標、目的、計画などの関係性を熟慮する上で重要なのは、科学的解釈と論理的思考である。⇒磨いていきましょう!</li> </ul>						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	①対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。②各関節運動における代償動作パターンを説明できる。③適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。④適切な動かし方で他動運動を介助できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)	
	各コマにおける授業予定	肩甲骨、肩関節のROM 肩甲骨、肩関節のROMを学習し、実習を通して理解を深める。	【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	①対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。②各関節運動における代償動作パターンを説明できる。③適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。④適切な動かし方で他動運動を介助できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)	
	各コマにおける授業予定	肘関節、前腕、手関節、手指のROM 肘関節・前腕、手関節、手指のROMを学習し、実習を通して理解を深める。	【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	①対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。②各関節運動における代償動作パターンを説明できる。③適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。④適切な動かし方で他動運動を介助できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)	
	各コマにおける授業予定	股関節、膝関節のROM 股関節、膝関節のROMを学習し、実習を通して理解を深める。	【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	①対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。②各関節運動における代償動作パターンを説明できる。③適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。④適切な動かし方で他動運動を介助できる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)	
	各コマにおける授業予定	足関節・足部、体幹のROM 足関節・足部、体幹のROMを学習し、実習を通して理解を深める。	【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	⑤対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。 ⑥各関節運動における代償動作パターンを説明できる。⑦適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)	
	各コマにおける授業予定	肩甲骨のMMT 肩甲骨のMMTを学習し、実習を通して理解を深める。	【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)			

授業の方法		内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>㉕対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。 ㉖各関節運動における代償動作パターンを説明できる。㉗適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。</p>	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)  【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)
	各コマにおける授業予定	<p><b>肩甲骨、肩関節のMMT</b></p> <p>肩甲骨、肩関節のMMTを学習し、実習を通して理解を深める。</p>		
第7回	講義形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>㉕対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。 ㉖各関節運動における代償動作パターンを説明できる。㉗適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。</p>	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)  【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)
	各コマにおける授業予定	<p><b>肩関節のMMT</b></p> <p>肩関節のMMTを学習し、実習を通して理解を深める。</p>		
第8回	講義形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>㉕対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。 ㉖各関節運動における代償動作パターンを説明できる。㉗適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。</p>	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)  【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)
	各コマにおける授業予定	<p><b>肘関節、前腕、手関節のMMT</b></p> <p>肘関節、前腕、手関節のMMTを学習し、実習を通して理解を深める。</p>		
第9回	講義演習形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>㉕対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。 ㉖各関節運動における代償動作パターンを説明できる。㉗適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。</p>	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)  【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)
	各コマにおける授業予定	<p><b>手指(母指)のMMT</b></p> <p>手指(母指)のMMTを学習し、実習を通して理解を深める。</p>		
第10回	講義形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>㉕対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。 ㉖各関節運動における代償動作パターンを説明できる。㉗適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。</p>	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)  【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)
	各コマにおける授業予定	<p><b>手指(2-5指)のMMT</b></p> <p>手指(2-5指)のMMTを学習し、実習を通して理解を深める。</p>		
第11回	講義形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>㉕対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。 ㉖各関節運動における代償動作パターンを説明できる。㉗適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。</p>	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)  【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)
	各コマにおける授業予定	<p><b>股関節のMMT</b></p> <p>股関節のMMTを学習し、実習を通して理解を深める。</p>		
第12回	実習形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>㉕対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。 ㉖各関節運動における代償動作パターンを説明できる。㉗適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。</p>	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)  【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)
	各コマにおける授業予定	<p><b>膝関節、足関節、足趾のMMT</b></p> <p>膝関節、足関節・足部、足趾のMMTを学習し、実習を通して理解を深める。</p>		
第13回	講義実習形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>㉕対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。 ㉖各関節運動における代償動作パターンを説明できる。㉗適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。</p>	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)  【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)
	各コマにおける授業予定	<p><b>頭部、頸部のMMT</b></p> <p>頭部、頸部のMMTを学習し、実習を通して理解を深める。</p>		
第14回	実習形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>㉕対象者の状態に合わせた正しい検査肢位を取らせることができる。 ㉖各関節運動における代償動作パターンを説明できる。㉗適切な固定を行い、正しく自動運動を行わせることができる。</p>	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)  【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)
	各コマにおける授業予定	<p><b>胸椎、腰椎、骨盤のMMT</b></p> <p>胸椎・腰椎・骨盤のMMTを学習し、実習を通して理解を深める。</p>		
第15回	講義演習形式	<p>授業を通じての到達目標</p> <p>⑰-⑳</p>	教科書 配布資料	【事前学習】学習内容に目を通しておく。(30分)  【事後学習】復習。家族・友人で実技練習する。(30分)
	各コマにおける授業予定	<p><b>総復習、まとめ</b></p> <p>これまでの復習、実技試験や筆記試験に向けた演習を行う。</p>		